



# 福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2016

3月9日号

151  
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

## 新学部増設



副会長 遊 佐 烈

本年1月12日、福島県は診療放射線技師・理学療法士・作業療法士・臨床検査技師の保健医療従事者を育成する福島県立医大の新学部増設の基本構想を発表した。今まで県内に診療放射線技師の養成施設は存在しておらず、国立大学としては北海道大学を初めとする11校、公立は首都大学東京を含む3校、私立は全国で17校ありそれぞれ4年制をとっているが、未だに3年制の短期大学も1校存在する。そのため同じ診療放射線技師とはいえど格差が生じている。同じ診療放射線技師の免許を有しても、全てが大学卒業ではないため国家資格そのものの重みが問われているような気がする。

そんな中で福島県は診療放射線技師を含む新学部を4年制課程として、平成33年4月の開校を目指すという。診療放射線技師の養成施設に関しては齋藤前会長が県関係機関との会合の中で診療放射線技師確保困難を伝え、養成施設の開設をお願いした事もあり、県の担当者の中でその必要性が認識され現実味を帯びてきたようだ。この新学部校舎はJR福島駅の東側の中心市街地に地下1階、地上8階建ての計画のようである。本来なら福島県立医大の学部であるため、光が丘にある敷地内での建設かと思われたが、内堀福島県知事は会見の中で「学生や教職員の利便性、コスト圧縮、地域活性化などを検討してもっとも望ましい場所」と説明したそうである。確かに福島駅近辺の賑わいを昔のように取り戻せる一因となるかも知れない。施設としては講義室や実習室、研究室、講堂等も有するらしいが、街中のキャンパスとなると勉強する環境としてはどうであろうか。1学部のみであるため、解剖学や他授業等で光が丘キャンパスへの移動もだいぶ必要になってくるのではないだろうか。私ごとで申し訳ないが自分の学生時代は同じ敷地内に医学部の校舎や附属病院もあり、実習後にもちょくちょく技師室に遊びに行かせて貰い、先輩の技師さん達と話をした事が思い出される。学生にとっても良い環境であったと思う。

2011年の東日本大震災後に世界の放射線専門家が福島に集まり講演を行なったが、そこでは学生に対する教育の必要性が述べられた。学生の放射線に関する授業時間は少なく、もっと時間をかけるべきであるという事である。診療放射線技師に関しても大学卒業後、更に大学院に進み専門的な研究を行うなど非常に高度な知識と資格を有する方も多くなってきた。これは非常に喜ばしいことであり歓迎すべき事だと思う。そのような若い方に触発されてか、職員の中には働きながら大学院に通う者も増えてきている。仕事をしながらの大学院は大変かも知れないが、職場内でも何とか応援して貰いたいものである。

福島県内初となる学部の卒業生が輩出されるまではまだまだ時間がかかるが、やっと私たちの職業も認知されつつあると喜びながら、まだ見ぬ後輩達には大きなエールを送りたいと思う。

## 《平成27年度第4回理事会議事録》

日 時：平成27年12月4日(金) 14:00～16:00  
 場 所：太田西ノ内病院 5号館2階 会議室  
 出席理事：会長新里昌一、副会長遊佐烈、同平井和子  
 常任理事堀江常満、同菅野和之、  
 同阿部郁明、理事鈴木雅博、同森谷辰裕  
 同秋山淳一、同田中邦夫、同佐藤政春、  
 同佐藤孝則、同佐藤佳晴、同池田正光  
 出席監事：監事片倉俊彦  
 欠席理事：理事白石嘉博、同池田昭文、同鍵谷 勝  
 欠席監事：監事高橋宏和  
 指名出席：事務局長齋藤康雄 事務局員本田清子、  
 同笹川克博

遊佐副会長の司会で開会し、議長には定款により新里会長が就任し、議事記録担当者に県南地区佐藤政春理事を指名して議事に入る。

### I 議事

#### 1. 平成27年度事業について

##### 1) 各委員会等の進捗状況報告

学術委員会 (佐藤孝則委員長)

- 平成27年度福島県診療放射線技師学術大会参加人数は会員143名、非会員28名、一般6名であった。

座長、演者の後抄録未提出が若干ある。連絡不足で抄録の段組は2段組のところ1段で提出した会員がいたが、新人の会員と思われる。

学術奨励賞は学術委員会内ではほぼ内定したが発表できる段階に至っていないのでこの場では報告できない。

決算についてはまだ請求書の届いてないものもあるので理事会には間に合わなかったが、予算内で決算できる見込みである。

精度管理委員会 (佐藤政春委員長)

平成27年度X線アナライザー貸出実績は月3、4件程度の使用実績である。12月は県南地区で管理しており2件の貸出申込みがある。

ネットワーク委員会 (菅野委員長)

平成27年11月7日に委員会会議を開催して、HPの内容について検討を行った。

- 申請書、届出等は専用ページを作成する。
- メルマガから直接、講演・講習会等の案内ページ飛べるよう改善した。
- HP上からの一般からの問合せを、現在の「事務局」から「技師会お問合せ窓口」に変更し、分かりやすくする。
- 公益社団法人福島県診療放射線技師会で検索すると福島県診療放射線技師会から診療や法人の文字が欠落して表示されるが、これは検索サイト側の問題であり委員会としては対処不能である。

- HPから診療放射線技師になるための学校へのリンクに、新たに「つくば国際大学」を追加する。
- 「福島県から医療技術者養成学校の学生に対して奨学金の補助が出るが、診療放射線技師も対象となるので、この旨をHPで案内し福島県の奨学金のページにもリンクするようにしてもらいたい」と新里会長より依頼があったので、リンクを検討する。

編集広報委員会 (平井委員長)

- 放技ニュース、会報表紙等の2色刷り等を検討している。他の業者や隣県の業者からも見積を取り、予算内で収まれば会報表紙等を多色刷りで作ることが承認された。
- 健康祭り等で配布しているクリアファイルの在庫が少なくなってきたので、次年度作成したい。担当は広報の一部という形で編集広報委員会が担当すべきかと思うので、初回は県南からの提案のキャッチコピー、図案を採用して作成したが、次からは広報委員会でキャッチコピー、図案等の募集を含めて検討し、次年度作成することで承認された。

調査委員会 (佐藤佳晴委員長)

- 技師会認定資格・意識等を世代別にアンケートで調査する計画を進めている。

生涯教育委員会 (堀江委員長)

- 業務拡大に伴う統一講習会を12月5日、6日(土日)太田西ノ内病院5号館会議室で開催する。23名の受講(県外2名含む)申し込みがある。宮城、山形、岩手から講師を招くことにしている。来年度フレッシュセミナーを6月12日に予定している。統一講習会は来年度も開催する。東北各県との調整もあるが、9月の下旬か10月の下旬に静脈駐車場の抜針を含め開催を検討したい。

- 次年度は、診療放射線技師消化器基礎技術講習会を7月中に開催することにしたが、県内のJART会員技師の講師比率が50%を超えなければならない縛りがあり人選を進めているところである。

財務委員会 (阿部委員長)

- 11月30日に高橋会計事務所で開催された。詳細については片倉監事から話がある。
- 12月1日現在の予算の執行状況について配布別紙に沿って説明があった。収入が5,562,139円、支出が5,635,818円で支出が収入を上回っている。前年度繰越金が2,928,208円で、残高が2,854,529円となっている。支出が収入を上まわる状況にあり原因は会費未納者多数のためである。
- 会費の納入状況について、25年度未納者5名、26年度未納者24名、今年度未納者143名、現在全未納者が172名で172万円の未納金がある。未納者リストを記載しておいたので、まず各地区で対応を進めていただきたい。
- 会費未納者について理事会でも共有し、今後どのよ

うに対応するか理事会で協議して決めていく必要がある。

中間監査の実施状況についての報告（片倉監事）

- ・適応科目が不適当なものもあったが、会計士と相談しながら進めていくと解決する問題である。
- ・会費未納者が9月末時点で30%ある。納入率を上げてもらうと運営も楽になるかと思うので、未納者を減らす対応をしてもらいたい。
- ・25年度未納者が本年度末で資格を喪失する事になるが、3年分の会費を払わないで止めるような形になると辞め得になり、完納して辞めたものと不公平になる。未納者の対応は法的な措置を含めて厳しく処置する旨を含むマニュアルを理事会の同意を得て作成し、会として事務的に処理して記録を残し対応がわかるようにしてもらいたい。
- ・他の未納分については年度末には納入されるようにと思うので様子を見ていきたい。
- ・中間監査が11月末に実施されるのは遅すぎる。各協議会からの会計報告を早めに上げてもらいたい。
- ・各分科会の補助金の使途が不明である。総会の分科会報告に盛り込み使途を明確に報告してもらいたい。中間監査で以上の指摘があった。
- ・会費未納者に対する対応マニュアルについて協議の結果、執行部で作成し次回の理事会に諮ることとした。

災害対策委員会（遊佐委員長）

- ・シンチレーションサーベイメータの校正については会津、浜地区は完了した。次年度は県北、県南地区の校正を予定している。高額なので今後は3年に一度校正するようにしたい。
- ・福島県原子力防災避難訓練は平成27年11月28日(土)に行われた。このための打ち合わせ会議が平成27年8月19日、9月30日、10月29日の3回開催された。

2) 研究会、講習会開催案内等

- ・「業務拡大に伴う統一講習会」が12月5日(土)、6日(日)太田西ノ内病院5号館会議室で開催される。
- ・「リスクコミュニケーションセミナー」が12月5日(月)コラッセふくしまで開催される。

3) 報告他

全国会長会議及び東北地域会長会議報告（新里会長）

- ・東北会長会議（10月30日：山形テルサ）別紙資料  
女性技師ワーキンググループ（以下WG）活動のため負担金300円を400円に値上げ予定であったが日放技から女性技師WG活動に助成金が出ることが分かったので負担金は300円のまま据え置く。
- ・全国学術大会を岐阜、北海道の次に震災後の東北開催の意味合いで福島県はどうかとの打診があったが、以前に開催しており東北放射線医療技術学術大会と重なるので困難と断った。宮城県は未開催県である。
- ・全国会長会議（11月22日：京都）別紙資料

核医学検査での死亡事故の報告と事故防止。統一講習会に多数の受講をお願いされた。

JARTから県技師会への業務委託は契約書を交わす。

平成27年度福島県原子力防災避難訓練報告

（遊佐副会長）別紙資料

- ・平成27年11月26日(木)は電話、FAXでの緊急時通信連絡訓練に会長が参加した。また、平成27年11月28日(土)避難先（三春町、柳津町）でスクリーニング訓練が行われ、本会から遊佐災害対策委員長、菅野管理士部会会員、会員からスクリーニング要員として三春町に6名、柳津町に2名を派遣した。他に医療中継拠点スクリーニングに医大から2名が参加した。
- ・遊佐副会長（三春町）、鈴木理事（柳津町）から訓練の反省点、問題点が報告され、問題点、改善点は県に申し入れ済みとのことであった。
- ・佐藤孝則理事より追加報告医大に医療災害部が作られた。原子力防災訓練（通信訓練）に際し医大放射線部連絡網を医療災害部に提出した。

ピンクリボン活動のジャンパー購入について

4着購入（10,470円）することが理事会で承認され、県南地区で保管することとした。今後のピンクリボン活動等で着用する。

- ・ピンクリボンin郡山2015（10月25日開催）に宮城県、山形県の女性技師（WG）3名が視察に来られた。

事務局報告（斎藤事務局長）

- ・日放技の永年勤続30年、50年、功労賞の推薦については申請書類を提出済。平成28年度の県知事表彰推薦依頼が来たが基準を満たす者がいないので今回は見送る。
- ・前回提案された県北地区の備品であった電離箱サーベイメータを県技師会備品に組み入れる件は、会計事務所に問い合わせたところ「財務処理は必要なく備品台帳に記載のみで可」との回答を得た。
- ・新里会長、伊藤顧問、斎藤事務局長の3名で木村先生宅を訪問し寄付のお礼と感謝状の伝達を行った。
- ・前回提案された会議、イベント等での事故に対する保険については保険の窓口等で調べたが条件を満たす保険は無かった。「傷害保険」はあるが往復の交通手段については含まれない。会議のみはリスクも低く保険に入る団体は無いとのこと。往復の交通を含む保険は「旅行保険」が該当するが、事故の確率的には往復の交通手段によるものが大きいと思われるのでもう少し保険について調べる。

\* 県原子力防災訓練会議に訓練に対しての事故や保険についての話は一切出なかった。（遊佐副会長）

- ・会員名簿の配信は、前回の理事会で隔月としたがそれほどの頻度での必要はないので、新入会員、会員移動もあるので年4回程度、地区委員会・理事に配信することで了承された。

メールで配信した平成28年度事業計画は、次回理事会で決定したいので追加、変更等あればメールで連絡してもらいたい。(新里会長)

東北放射線医療技術学術大会は演題数が多く出るようになったので学術奨励助成金は予算的に厳しい状況になってきているので減額したい。(佐藤学術委員長)

協議の結果、助成金は次年度から他県の東北大会は5千円に引き下げ、全国大会は一万円に据え置くことで承認された。

「会津・心臓・心血管疾患研究会」の後援協力(技師会名義使用のみ)依頼は理事会で承認された。

平成28年5月28日開催の公益社団法人福島県診療放射線技師会総会は、会場を県南地区・郡山市中央公民館にする。特別講演については検討中。 以上

#### 「保健医療従事者の

#### 新たな養成施設に係る基本構想」について

1月12日付けで、県から発表されてTVニュースや新聞でも報道されました。平成33年度を目処に、福島県立医大の新学部として準備を進めるようです。やっと、県内でも診療放射線技師の養成施設が出来るのかとの思いです。昨年度から県の有識者会議に、当会の斎藤前会長が出席し検討を重ねて来た構想が具体化されました。また、原子力防災訓練や放射線知識の啓蒙等の地道な活動が、県で評価されてきた事も背景にあります。

県技師会としても、県内初の養成施設を応援して行きたいと考えます。要望としては、「技師養成は技師で」と修士や博士を持つ技師を先生として採用して欲しい事です。(会長 新里昌一)

#### ▶ 「福島県診療放射線技師会学術講演会」開催

平成28年2月20日(土)に、福島テルサにおいて福島県学術講演会が開催されました。初めに、協賛メーカーのエーザイ株式会社より情報提供がありました。

特別講演1は、国際医療福祉大学の丸山純人先生が、「MRIの撮像パラメータとトレードオフ」を講演して頂きました。MRIの基礎的な内容を分かりやすく説明してくれました。

特別講演2は、大阪市立大学の市田隆雄技師長が、「臨床現場での技師の活躍像 血管撮影・IVR・CT」を講演して頂きました。日本におけるDSA検査の先駆けとなった話、画質や被ばく提言の最適化等も聞かせて貰いました。また、多くの経験から、医師に意見が言える技師=患者のためになる技師を目指して頑張りたいと熱いエールを送りました。

この研究会は放射線技師会とエーザイの共催で開催されて来ましたが、残念ながら今回が最終回になります。今回私のミスで、県HPに掲載忘れた事をお詫びいたします。(会長 新里)

#### ▶ 「第23回 画像技術研究会」開催

平成28年1月16日(土曜日)福島市上町の福島テルサ3F「あぶくま」において、第23回画像技術研究会が開催されました。今回の研究会テーマは「～情報量としての臨床画像を考える(主に胸部領域について)～」として

企画され、講演1には星総合病院 放射線科 技師長補佐 続橋順市先生に「医用画像における外部保存はアリなのか? ~運用とコスト面から考える~」と題して、画像圧縮から読み取る臨床画像の情報量との観点で講演いただきました。近年において画像のデジタル化が進み、サーバーバックアップなどの点から、クラウド化によるデータ運用が進んでおり、有限なストレージを効率的に活用するため、画像圧縮技術が進んでいます。これらを背景に星総合病院でのシステム導入に当たり、コスト比較、医療画像におけるストレージ効率化のための圧縮方法決定についてのべ、臨床において各モダリティが現在どこまでのデータ量(画質)を求められているのかを講演いただきました。

講演2として、大原総合病院 画像診断センター センター長 森谷浩史先生に「胸部画像診断の適応と限界 ガイドラインから推奨条件を考える」と題して、読影医が必要している臨床画像の情報量との観点で講演いただいた。CT検診などの推奨条件や呼吸器関連の各種ガイドライン(肺がん診療ガイドライン、画像診断ガイドラインなど)をベースにして、現状の画像診断の精度と適応の考え方についての概説や、今年度のJRCで話題となった超高精細CT(QDCT)の画像を提示いただけるなど、大変心躍る内容であった。当日は、E社(造影剤メーカー)の全国規模のCT研究会が同施設4Fでサテライト開催していたが、参加者57名(会員49名、非会員8名)と盛況のうちに幕を閉じた。(代表世話人 村上)

## 各地区新年勉強会

#### ▶ 平成28年 県南地区新年勉強会

1月30日(土)郡山市ビックアイにおいて「県南地区新年勉強会」が開催されました。勉強会には早朝からの雪で足元が悪い中、42名(非会員・メーカー含む)の方が参加しました。

今回はAutopsy imaging (Ai) をテーマに行われ、

教育講演では「福島県内のAiの現状と今後の展望」について福島県警察本部 刑事課 捜査第一課 検視官室長 鈴木利雄先生にご講演頂きました。現在、福島県内には22の警察署に15名の検視官が在籍しているそうです。

県内の変死体取り扱い件数は年間約3000体もあるそうで、そのうちAiは全体の約7割強で行っているとの事で



した。検視の対象となる変死体とは「死亡が犯罪に起因するものでないことが明らかであるとは言えない死体」のことを指し、その死因究明のために検視は行われるそうです。検視で行う検査にはトロポニン検査、薬物検査(トリエージ、インスタントビュー)、精液検査(PSA)、Ai(CT検査)等があり、その後必要があれば行政解剖や司法解剖を行うそうです。Aiは遺体を傷付けることなく短時間で高度な情報収集が可能であることから遺族の了解も得られやすく、また検案医師の負担軽減に繋がっているとの事です。Aiの件数は東北6県では福島県が第1位だそうです。その理由は県からの補助金が大きく関係しているとのことで初年度は年間50万円(20体分)であった予算が年々増額され平成27年度は4250万円(1700体分)の予算が確保出来たそうで、これがAiの積極的活用に繋がっているとの事です。変死体の一番多い季節は冬で、発見場所はやはり温度差が激しい風呂場や脱衣所が多いそうです。夏は冬ほど多くないそうですが腐敗した変死体が多いとの事でした。また作成したCD Rの取り扱いについて質問したところ、遺族負担で撮影したものに関しては遺族に返却し警察が公費で依頼したものに関しては他の書類と共に警察署で保管しているとの事でした。その他にも普段聞くことの出来ない話を検視官の方から直接聞くことが出来て大変勉強になりました。

その後の会員発表では「県内地区のAiの現状」について下記の4施設より発表して頂きました。

町立三春病院	佐藤政春氏	白河厚生総合病院	吉田 賢氏
太田西ノ内病院	宮田健史氏	総合南東北病院	国分信二氏

各施設でのAi運用方法や立ち上げまでの経緯についてなど詳しく発表して頂きました。15分の発表では時間が足りないくらい濃い内容で各施設の努力やご苦労が伝わってきました。最後は会場の都合と座長の不手際により質疑応答の時間が無くなってしまおうというハプニングがあり演者および参加者の方にはご迷惑をお掛けしましたが、この続きは新年情報交換会という事でご了承頂き会は盛会のうちに終了しました。(県南学術 真船)

#### ▶ 第27回 いわき地区画像研究会新年会開催

平成28年1月8日グランドパークホテルエクセルいわきにおいて、「第27回いわき地区画像研究会」ならびに新年会を開催いたしました。

画像研究会は、星総合病院 続橋順市氏をお招きし『「FPDの実運用とそれに関わる諸問題」(～バーチャルグリッド処理も含めて～)』と題してFPD導入時に行った一般機器へいかにスムーズに撮影するための工夫や、撮影時問題になりそうなシステムの改善点、FPDにまつわるエラー、アーチファクトなどの故障時に高額な修理費など挙げいかにメンテナンス契約が必要か。また、ポータブル撮影時においてIPカセットよりも重量のあるFPDをいかにスムーズに患者様の背に入れるコツなど、色々ご紹介して頂きました。

バーチャルグリッドを使用とFPDのみ場合の撮影条件を変えながら画像の比較しながらバーチャルグリッドの有用性をとても詳しくわかりやすく教えていただきました。



講演終了後、別室で新年会を行いました。当日は風も強くとても寒い日でしたが、温かい鍋をつつきながら楽しい時間をすごしました。(菅原)

#### 県北地区

##### 「県北地区協議会勉強会、新年交流会」開催

平成28年2月6日に福島市杉妻会館にて県北地区勉強会および新年交流会が開催されました、勉強会では前福島県立医科大学放射線部技師長、遊佐 烈氏を講師としてお招きし「震災対応を振り返る」と題した講演をいただきました、震災より5年が経過し原発事故の対応、市民へのリスクコミュニケーションなど、当時の混乱の中の対応から現在までを時系列に詳しくお話しいただきました。



薄れていた当時の記憶が蘇り、当時の反省と今後の対応を考えさせられる内容でした。

交流会では皆様各施設の方々と交流する貴重な時間を楽しまれていたようです。(安藤)

## 地区だより

### 会津地区

会津地区「第89回会津画像研究会」開催

平成28年1月28日(木)に以下の勉強会が開催されました。

場所 山鹿クリニック2F カンファレンス室

演題 1. 話題提供 第1三共株式会社  
2. 「コニカミノルタFPDシステムと最新技術の紹介」

コニカミノルタヘルスケア株式会社東北支店  
デジタルシステム担当 久保雄一氏

3. 「当院におけるワイヤレスFPD搭載  
ポータブル装置の使用経験」  
竹田総合病院 放射線科 栗田準一郎氏



参加人数は20人でした。今回コニカに紹介していた「AeroDR premium」は世界最軽量でありながら、高い堅牢性を備えているそうです。またバッテリー性能も大きく向上し、30分の充電で300画像/8.2時間の撮影が可能だそうです。

竹田総合病院ではワイヤレスFPDにより、IPを運ぶ必要がなくなり、ポータブル装置のモニタ上でRIS、コンソールの操作が容易にできるようになったそうです。

また、インテリジェントグリッドによってグリッドを使用せずに画像処理のみで胸部、腹部の撮影が可能となったそうです。興味深い内容が多くとても有意義な勉強会でした。  
(浅川)

### 県南地区

県技師会総会を県南地区協議会が担当いたします。今回の特別講演では、「県内外から見た福島」と題し、「ふくしまボンガーズ」をお招きして講演を頂きます。

ふくしまの県内・県外から感じた「ふくしまの現況」をお聞かせ願える事になっています。

会員諸兄のご来場をお待ちすると共に、一般の方々の入場も歓迎いたしますので、お知り合いの皆さんにお声掛け頂きますようお願い致します。  
(白石)

### 浜通地区

「市民公開講座」開催

平成16年2月16日いわき市文化センターにて市民公開講座「切らずに治す：最新の放射線治療」と題し、福島医科大学教授鈴木義行先生に講演して頂きました。平日の忙しい時間にもかかわらず、大勢の方々に出席し先生の免疫治療と放射線治療を併用した治療により治療効果が上がり今後ますます治療効果に期待ができることなどのお話を真剣に聞いていました。

平成16年2月20日には、放射線医学総合研究所福島復興支援本部いわき出張所開設記念として、いわき市総合保健福祉センターにおいて、「放射線医学研究の最前線」と題し4名の先生に講演いただきました。

1. 放医研5年間のあゆみ 明石 真言氏
2. こどもに対する放射線影響とその低減化 柿沼志津子氏
3. 福島第一原発周辺での環境への影響 渡辺 嘉人氏
4. 画像で見る脳の老化と認知症の早期診断 須原 哲也氏

福島原発事故から4年が経過し今までのデータの結果とあって、会場が満席となるなど市民の関心も高く終了時間が過ぎるほど質問が飛び交いました。  
(菅原)

### 第71回（平成28年度） 公益社団法人福島県診療放射線技師会 定時総会

期 日：平成28年5月28日(土)

会 場：郡山市中央公民館（勤労青年ホーム）  
郡山市麓山1丁目8番4号

受 付：13時30分より

開 会：15時30分より

特別講演『県内外から見た福島』

講師「ふくしまボンガーズ」

### 編集後記

早いものでもう27年度が終わろうとしています。福島原発事故より4年が経過し、ようやく分かれていた浜通りも道路がつながり行き来できるようになりました。27年度夏浜通り地区と相双地区による浜相双地区協議会ができました。

まだまだ、問題はありますが、できることから一つ一つ解決できるよう微力ながらお手伝いできればと思います。  
(福島労災病院 菅原)